

平成30年度 経営協議会学外委員等からの意見と対応状況

○経営協議会学外委員からの意見と対応状況

番号	経営協議会	学外委員等からの意見	本学の対応状況
1	第74回 H30.6.21開催	現在、政府において、学長裁量経費がどのような項目に配分され、戦略的に使われているかを調査し、評価するという動きがあるが、それに対応できるよう項目を整理し、柱となるものがあれば明確化していただきたい。	「ASANO VISION2020」において、「教育研究・学生支援」、「社会・国際連携」、「業務運営等」の各分野で掲げている目標を実現するため、戦略性が高く意欲的な施策・事業に学長裁量経費を重点的に充てるものとしており、これまでに各分野において以下の事業などに充てている。 1. 教育研究・学生支援 本学の重点支援事業の1つである「グローバルに活躍できるイノベーション創出人材の育成」に係る経費を支援した。これにより、博士後期課程学生の海外派遣の人数を増やし、学生の国際コミュニケーション能力の向上等に繋げている。 2. 社会・国際連携 産学連携ニーズの調査・分析、及びその結果を本学教員にマッチングするためのシステム構築に係る経費やマッチングイベント「Matching HUB Kanazawa」の開催費等を支援した。その結果、マッチング事業による企業との協議件数は、大幅増となっており、産業界との連携の推進に寄与している。 3. 業務運営等 学長裁量経費における継続事業として以前より行っている「JAISTシンポジウム」を、平成28～30年度も年1回東京で開催し、大学院大学のプレゼンスと本学の認知度向上に寄与している。
2		カリキュラム改革において、新しいコースワーク設計にあたり、産業界とどのように学生を共育していくのか具体的に明示していただきたい。	本学では産業界と連携した各種の取組を行っており、産業界のニーズを教育内容に反映するよう努めている。 ・産業界と連携したグループ副テーマ研究 ・修士論文等中間発表会におけるインダストリアルアドバイザーからの助言 ・企業と本学が連携した、企業が求めるドクター学生の育成及び就職
3	第75回 H30.9.20開催	学生には技術者の責務と技術が社会にもたらす影響を理解させることが重要である。入学1年目に教える機会を設けることを検討していただきたい。	年2回の入学者を対象とした全学オリエンテーション(石川キャンパス)において、産業界から講師を招いた「産学連携セミナー」を開催し、産業界が大学院生に求める人材像などをテーマに講演を行うことで、学生が自らのキャリアパスを考える機会の一助としている。
4		学生は、企業の現場の人と直接触れ合うことで企業の考えを肌で感じることで、先を見通す力を養うことができるので、ぜひ、学生に企業のトップ、学長や教員と一緒にディスカッションできる機会を設けていただきたい。	本学が開催している産学官金連携マッチングイベント「Matching HUB Kanazawa」において、その1事業として、学生のアイデアや研究成果をビジネスに活かし、地域の若い力をイノベーションにつなげることを目的に、全国の学生を対象に、学生ビジネスアイデアコンテスト「M-BIP (Matching HUB Business Idea & Plan competition)」を開催している。 H30.11.1に実施した最終審査により提案があった59件の中から最優秀賞を受賞した学生への副賞として、希望する企業のトップとディスカッションできる機会を設けた。

5	第76回 H30.11.22開催	新年俸制は、大胆な改革であり、実施に向けて進めていってもらいたい。ただし、実施した後、問題点は出てくると思われるので、毎年の見直し及び検討を行っていただきたい。また、特に優秀な人材の採用に当たり、より高い区分の設置についても検討していただきたい。	新年俸制の実施にあたり、毎年度検証を行い、必要に応じて随時見直しを行う。また、特に優秀な人材を採用するために学長が特に必要があると認めた場合は、別途、年俸表(最大1,800万円/年)による額を決定できる取扱いを定めている。
8	第79回 H31.3.15開催	指定国立大学制度や運営費交付金の重点配分の仕組みなど、昨今の大学を取り巻く状況は年々複雑になってきている。JAISTが今後どういった経営戦略で、どのような政策を実行していけばよいか、基本的な在り方を経営協議会の場で議論すべきではないか。	令和元年6月の経営協議会から、経営協議会の議事日程及び資料等を見直し、経営協議会委員との十分な議論の場を設けることとした。

○アカデミックアドバイザーからの意見と対応状況

番号	アカデミックアドバイザーとの交流会	アドバイザーからの意見	本学の対応状況
1	H29.11.27開催	今は産業構造がどんどん変化しているので、産業界というものを決まった形で捉えるよりも、それを超えるような学生を輩出することが重要ではないか。	入学者を対象とした全学オリエンテーションにおいて、産業界から講師を招き産学連携セミナーを実施するとともに、イノベーション創出セミナーを開催し、本学学生も参加し、アントレプレナーシップを持つ学生の育成につながるよう取り組んでいる。また、変化する産業界のニーズをとらえ、これを踏まえた教育研究活動を行うため、修士論文等中間発表会ではインダストリアルアドバイザー、企業URA等及び学内URAが参加し、学生の発表に対して産学連携等の観点から助言を行っている。更に、国際的な場で活躍する人材を産業界に輩出するための取り組みとして、学生の研究留学や海外企業等でのインターンシップを行うほか、社会人コース学生と石川キャンパス学生が研究活動の交流を行うため「研究活動等推進交流事業」を実施するなど、さまざまな背景を有する学生の多様性を活かした教育に取り組んでいる。
2		教員1人当たりの外部資金が866万円というのは、絶対的に少ないので、申請書の書き方やプレゼンについてアドバイスするなど、外部資金を倍に増やす取組をぜひ進めてほしい。	本学の科研費サジェッションシステム委員及び科研費委員会委員による申請書の査読及び申請者に対する指導・助言等の支援を行うにあたり、今年度からは、上記委員に科研費獲得実績等が豊富な本学名誉教授にも参画してもらい、支援体制の強化を図った。

○産業界の有識者からの意見と対応状況

番号	産業界の有識者と学長との懇談会	アドバイザーからの意見	本学の対応状況
1	H29.11.29開催	研究においては最初のセッティングが重要であるため、試験データを作る段階で何人かのアドバイザーと議論する場を設け、更に中間にチェックする場があれば、より学生の研究の効率が上がるのではないか。	平成30年6月開催の修士論文等中間発表会から、博士前期課程学生だけでなく、博士後期課程学生も対象者に追加し、インダストリアルアドバイザー等からコメントを受けられる場を設けた。
2	H29.12.4開催 (東京サテライト)	リベラルアーツのような教育もお願いしたい。他人の意見を聞きながら、多様性の中で自分の意見を主張して答えを導き出すことができる、実用的な答えを作れる人材がほしい。	専門知識を生かして活躍するのに必要な能力である人間力(他者や社会と協働しながら何かを達成しようとする個人の意欲・能力)や創出力(他者と協働しながらイノベーションを創出する意欲・能力)を身につけることを目的に、博士前期課程の必修科目として「人間力イノベーション論(S101)」及び「創出力イノベーション論(S102)」、博士後期課程の必修科目として「人間力・創出力イノベーション論(S503)」を設けている。